

# 令和3年度全国高校総体 審判員報告書

C 3 C 4 審判長

氏名 安福康夫

## 1. 採点上打ち合わせた事項

### (1) オンライン審判研修会の実施

本年度は新型コロナウイルス感染症感染防止対策の一つとして、オンラインでの審判研修会となった。8月14日土曜日の17時～19時15分の時間で、zoomミーティングを利用し、動画を見ての採点研修およびディスカッションを実施した。

#### ア 採点競技の特性について

- ・ルールに則って順位付けをすること
- ・採点結果は新体操の方向性を指し示すものであること

#### イ 審判のあり方について

- ・審判員としてのモラルを遵守すること。
- ・監督・選手との接触は挨拶程度とすること。

#### ウ 個人競技の採点について

##### (ア) 構成

- ・難度だけでなくその他の技の組み合わせ価値について見極めること。
- ・実施上のミスが構成得点に影響しすぎることが多いため、その影響する部分を確認し、減点しすぎないように注意をすること。
- ・運動と手具操作の組み合わせについて、その価値を見極めること。

##### (イ) 実施

- ・動きの質と手具操作の同調性を見極めること。
- ・目に見えた減点はしっかりと引くが、減点ありきの採点はしないこと以外。

#### エ 団体競技の採点について

##### (ア) 構成

- ・難度だけでなくその他の技の組み合わせ価値について見極めること。
- ・徒手系要素と転回系要素の同時性についてしっかりと確認し採点すること。
- ・移動の方法が走るだけでなく、運動をしながら移動や隊形変化をしているかを見極める。

##### (イ) 実施

- ・運動の質を重視し採点すること。特に徒手体操とダンス的な動きとの違いを見極めること
- ・運動の途切れや不自然な流れについて着目すること。

## 2. 採点上起こった事項とその処理

(1) 衣装に体に密着していない襟がついている選手がいたため減点した。

(2) 衣装に立体的な飾りがついているチームがあった。飾り自体は密着しているが、厚みがかなりあり、体操着としての装飾の範囲を超えていると判断し減点した。

(3) 足を痛め試技の続行が不可能になった選手がいた。演技時間が1分に満たなかったためルールどおり0点とした。

(4) 試技直前に鼻血が止まらなくなった選手がいた。採点審判部と相談し、最終班の後に試技を行った。

## 3. その他特記事項・意見・感想等

コロナ禍の大会ということもあり、選手並びにすべての大会関係者の努力にこたえられるよう、審判員一同心を込めて採点をさせていただきました。

個人競技はかなり難しい内容に取り組んでいる選手も多く、大変見ごたえがあった。ただ技が増えた分だけ、基本的な徒手運動がおろそかになっている傾向があり、新体操の本質的な部分の見直しが必要と感じた。今回上位に入った選手は転回系が強い選手が多かったが、そのこと以上に実施力が高く、減点が少なかったことが勝因であった。審判団としては転回系がそれほど強くなくても、運動の質が高い選手に高い得点を出す準備をしていたが、それに該当する選手が見当たらなかったのが残念であった。

団体競技では、上位のチームの作品の工夫が素晴らしく、それぞれのチームがそれぞれ

れの長所を生かしていることが印象的であった。ただ大会全体としては例年と比べてミスが多かったように感じた。コロナ禍で練習時間が十分に取れなかったことも考えられるが、昨今の団体の傾向でもある「運動量」「タンブリングの高難度化」が起因していると思われる。選手の能力を超えた内容を実施することは事故の原因にもなるため、監督の先生方には十分に考えて構成していただきたい。また審判する際には、新体操の方向性を指し示すためにも、見た目の派手さに惑わされず、新体操が求めている本質的な部分をしっかりと考え、団体的同時性が高い演技や熟練度の高い演技に高い得点を出していかなければならないと感じた。

最後になりましたが通常でも大変な運営に加えて、きめ細やかな感染防止対策に取り組んでいただいた役員の皆様、実行委員会や補助役員の方々のご尽力により素晴らしい大会が無事終了できたことを心から感謝申し上げます。

C3・C4 団体競技（男子：構成主任）  
個人競技（男子：構成主任）

氏名 菊地 伸宏

1. 採点上打ち合わせた事項

【個人】

- ・ 難度認定だけにとどまらず、演技全体の構成の難しさを見極め、点数に適切に反映させること。
- ・ 構成上、実施に影響される項目を確認し、実施減点に引きずられ過ぎず構成面から適切な評価をもとに序列付けを行うこと。
- ・ 演技中の手具操作の多様性と難しさを見極め得点に反映させること、それが身体の運動とともに自然に行われているかを評価し、得点に反映させること
- ・ 手具の特性に応じた操作が行われているかを適切に評価すること。

【団体】

- ・ 徒手系・展開系ともに団体競技の見せ所である同時性を組み込んでいるチームを評価していくこと
- ・ 展開系の同時スタートや2段スタートの価値を見極め、単に要素を満たすためだけのスタートになっていないか判断し評価する
- ・ 構成としての自然性を欠いた動きはあまり高評価としない
- ・ 転回系の構成内容の多様性を見極め、同じ転回系に偏っているチームは序列付けの際に気をつけること。
- ・ 隊形変化や移動の動きが単調で同じような動きになっていないか確認し、表現的な動きと徒手体操、体幹からの動きをバランス良く演技構成に組み入れている演技であるかを的確に判断すること。

2. 採点上起こった事項とその処理

- ・ 個人競技、団体競技とも、採点規則上、服装減点に該当する選手・チームがあり、審判長と確認の上、減点処理を行った。
- ・ 個人競技において、演技の冒頭で怪我により演技続行不可能となったので、採点規則に基づき、0点で処理を行った。

3. その他特記事項・意見・感想等

- ・ 2年ぶりのインターハイ開催ということで選手・指導者とも思いのこもった演技を目の当たりにすることができ感動しました。無観客大会でしたが、選手も適度な緊張感を持って演技に臨んでおり、ミスの少ない大会だったと感じています。練習環境に制限が多い中で、苦労が多かったと思いますが、ここまで仕上げてきた監督はじめチーム関係者に敬意を表します。コ

コロナ禍における大会運営で気を遣うところが多かった大会でしたが、地元実行委員会・補助役員・生徒のご協力のおかげで大過なく終えられましたことを感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

C 3・C 4 種目（新体操男子）

団体競技（男子：構成主任・実施主任）  
個人競技（男子：構成主任・実施主任）

氏名（岡田幸樹）

1 審判事前打ち合わせた事項

- (1) 順位付けを正確に判断、決断すること。
- (2) 「動きの量及び質」しっかりと見極め判断すること。
- (3) 選手・監督が目指していくべき方向性を示すこと。
- (4) 審判員が全ての演技に自信を持って審判し、その責任において説明が出来るようにすること。
- (5) 審判技術の向上を図り、全体的な動きを見抜く力と認める力を養い、感性を磨き審判すること。

2 採点上起こった事項とその処理

(1) 個人競技において：

- ア 全体的に転回運動を多用する傾向であった。また、不完全のまま実施する選手が多く見られた。
- イ コロナ禍の練習不足なのか全体的に手具などの落下ミスが多く採点に苦慮した。
- ウ 「手具」と「動き」の連動性や調和がとれていない選手が多かった。
- オ 難度を無理やり取ろうとして演技全体に深さ・大きさ・スピードそして柔軟性に欠ける選手が多かった。
- カ 「技」ばかりに捉われ基礎的運動部分の多様性に欠けている傾向にある。
- キ 演技直前に体調不良になった選手がいたが、裁定審判部で協議の上、演技順を繰り下げて実施。

(3) 団体競技において：

- ア どの学校も大変苦勞されて作品を創り上げて大会に臨んできていただき、審判団としても緊張感を持って審判を行った。
- イ 全体的に我々男子新体操競技が目指していくべき方向性で作品が作られていた。(団体同時性)
- ウ 徒手運動の大切さ(可動域・移動幅等)とその運動の創り上げ方によって大きく差が開いた。
- オ 団体競技において「静止」してよいのは、倒立・柔軟・バランスであり、それ以外(特に転回運動の前後)での静止が多くみられた。逆に上記の「静止」しなければならない部分において不十分さを感じた。
- オ 高校生の最高峰の競技大会であり、演技会ではないことを再確認し、教育的活動の場であることを認識したうえで大会に臨んでいただきたい。(ユニホーム・演技内容等)から不信感を持たざるを得なかった。

3 その他特記事項・意見・感想

今大会を振り返り、各審判員が緊張感の中で自信を持ってジャッジにあたってくださいました。

個人競技においては、もう少し技や転回運動にとらわれないでしっかりと上肢、下肢の連動性のある徒手運動に着目して欲しいと感じた。手具の落下が多かった。

団体競技においては、上位層と下位層の差が大きく、上位校においては特に熟練・洗練されていて素晴らしい演技が印象的だった。

今後、審判団としても新体操の正しい方向性や指針をしっかりと示し、ダイナミックさの中に美しい体操や極限から極限の動きを追求し、運動量・可動域の大きさ・質の高さの重要性や柔軟性の大切さをもっと見極め評価し、それが順位(総合評価)に繋がっていくべきだとも感じた。

コロナ過の今大会において、大きな怪我もなく成功裡に終わったことは、大会関係者の皆様の懸命なご尽力と微細にわたる目配りや気配りがあったおかげで思い出に残る素晴らしい大会にできたのだと大変感謝しております。また、昨年開催されなかったこの大会が実現できたことは今後の大きな自信となる大会であったことは間違いないと思います。さらに審判技術の向上を目指していきたいと思います。

皆様、本当にありがとうございました。